

- 管内 根室管内
- 分類 避難訓練 危険対応能力 防災訓練 その他（ ）
- 教育課程 教科（ ） 道徳 総合的な学習の時間 特別活動
- 校種 小学校（低） 小学校（中） 小学校（高） 中学校 高等学校
- 取組のポイント

- 地域に新設された避難施設を活用した避難訓練の実施
- 災害発生時における安全・迅速な行動や主体的な行動ができるなどの危機対応能力の育成
- 町の防災交通課と連携を図った避難施設の機能に関する内容の周知

取組の実際

ねらい

- 生徒が自らの安全を確保するとともに、迅速かつ主体的に行動することができる危機対応能力の育成を図る。
- 地域に新設された避難施設の活用を通して、新たな避難経路を確認するとともに、避難施設の機能について理解する。

内容

1 地域に新設された避難施設を活用した避難訓練の実施

【想定】

- ・生徒が、総合的な学習の時間に、校区内にあるネイチャーセンターで調べ学習に取り組んでいる際、北海道太平洋沖を震源地とするM9.0の地震が発生した。直後、沿岸部に大津波警報が発令された。

【避難訓練の実施】

- ・津波警報が発令された際、各自の判断で避難することの指導を受けていた生徒は、避難指示の放送後、ネイチャーセンターから約50メートル離れた「高床式避難施設」に避難した。

2 町の防災交通課の職員による避難施設に関する説明

【説明の概要】

- ・「高床式避難施設」は、高台のない野付半島で働く人や観光客の安全・安心を確保するため、本年4月から供用が開始された。
- ・「高床式避難施設」は、高さが6.6メートル、避難スペースが約100平方メートルあり、地域住民や観光客など、164名が避難できるように設計された。
- ・非常用保存水やビスケットなどの食料は、避難者全員が1日過ごせる量を備蓄しており、簡易トイレやガスボンベ式の発電機が整備されている。



〔避難施設に避難する生徒〕

【避難訓練を終えた生徒の感想】

- ・今回の避難訓練で学んだことは、自分の命は自分で守るということです。例えば、地震や津波のとき、誰かに聞くのではなく、自分で考えて行動するようにします。

【教職員や町の防災交通課の職員の願い】

- ・生徒には、災害発生時、どのように行動して自分の命を守るのか、常に頭に入れておいてほしい。
- ・迅速かつ安全に避難することの大切さを学んだり、防災意識を高めたりするために、本施設を活用してほしい。

成果と課題

- 地域の避難施設の機能や緊急時の安全な行動の在り方について、理解を深める機会とすることができた。
- 保護者や地域住民、消防等と連携を図った地域ぐるみの取組を行う必要がある。